

大学版画研究会
会報 15
1986.7

The Commitee of Unversities of Art for Print Studies in JAPAN

大学版画研究会が10周年を過ぎた所で、ふたたび山本鼎氏の日本版画協会の理念提言をのせたい。

会報6号に彼の一緒言一をのせているが、その第二弾がこれである。

○山本鼎 — 大同団結が行はれて、日本版画協会が成立してから5年経った。此年の間に創立当時に掲げた三大目的が皆実現して居るのである。帝展に版画を受容せしむる事に先づ成功し、次に巴里に於ける「日本現代版画展」が、日仏両国政府後援のもとに盛大に行はれ、最近には東京美術学校に版画科が設置さる事になったのである。全体としては甚だ緊張を欠いて居る協会が、加ふるに甚だ貧乏な協会が、よくこれだけの事をやって退けたものと感心する。版画に時勢が到来して居るのである。又全体としての迫力はなくとも大同団結の形態がおやくに立って居るのである。帝展に版画——の問題は岡田先生のお力であったし、国際展の成功は主として長谷川君と旭、裕君等の努力の結果であるし、美術学校に版画科の実現は、平塚君の骨折りであった。而も其名誉と責任は、例へば日本人の仕事がすべて日本帝国の面目に帰するが如くに、協会に帰するのである。協会の義務は重大である。処で従来、吾会員の協会に就いての意識は随分弛緩して居るやうである。協会の名に依って行はる、仕事を、ひとごとのやうに見て居る人はいないか？。幸ひ順調に把み得た三大端緒を将来に展開して、吾業一同の理想する版画復興期を大成するには、団体的迫力でかゝらねばならない。団体的迫力は全会員の協会意識の緊張によって作られる。日本版画協会は同業組合である。のみならず、美術界の第三帝国でもある。其形体は共和式組織である。既に全会員の選挙による委員会が会務を司り、事業を企画し、会員の総意を

体して是れを執行するのである。故に協会の迫力は委員会を信託し、強化する事によって發揮されるのである。今や目前、文部省と外務省が関与する一大国際展の計画と実行が協会に委ねられて居る。国際版画展は、第二部作品（参考としての前代版画）に重点があるように思つて居る人があるが、協会の志向は第一部作品（現代の新作版画）に重点をおくのである。此志向は幸ひ、昨年の巴里展に於て認められ、且つ迎へられて、彼の地の画商との常時取引の端緒をも作ったやうなわけであった。蓋し、骨董品としてゝない新作版画が内外に販路を拡げて、現代版画の生産を質量共に多端豊富ならしむる事こそ、協会存立の根本義なのである。さて此根本義の第一章はいふまでもなく「創作力の振興」であるが、これは定期的展覧会の確立、講習会及び講演会、技巧に関する新研究の発表、等々を持って作興されねばならない。斯ふ数えて来ると、切に欲しいのは金である。いや金をも呼び出すであらうところの一致団結の迫力である。かなり多数の会員を中央と地方に擁した協会が、凸凹だらけなブリキ板のやうに始末のつけにくいのを見て、大同団結よりも精鋭主義をとれと説く人もあるが、僕は、創業期の今日にあっては、むしろ現在よりも大組織を必要とし（例へば版画に因縁の深い学者、評論家、鑑賞家、画商等を外廓線に参与してもらふ事など）委員会強化主義を希望するのである。諸君の御意見は如何。（十年七月）

（日本版画協会会報第2号より）

2年間の事務局を終えて

清水昭八

事務局を引き受けてこの2年間、あたふたと過ぎて諸問題をかかえ、次期事務局に日本大学・芸術学部にもバトンタッチすることになった。

さて、ここで先ず問題になることは、年々増加する記録資料・会報・書類等の移転運送である。

整理するにも破棄してしまつて後悔の念にかられるようでは一大事である。ここに固定した事務所も考えなければならない時期にきているのではないだろうか。人事上の問題・事務局長、書記、会計と場所の問題を二分して考えてみるのも一つの方法かも知れない。

このことによって事務局を東京地域から他の地域に移すことも出来やすくなり、会の活動内容も幅広く新鮮さも出てより多様性を期待出来るのではないだろうか。

大学版画研究会事務局の仕事は現在のところ、明日の美術を担う版画家育成の観点から、大学版画展開催が大きな部分を取っている。本年度までは東京・大阪フォルム画廊、丸ノ内画廊の両画廊さんに多大のご支援をうけて開催し大きな役割を果たしてきているが、次回からの開催を町田の国際版画美術館に移るにあたり、根本的に考える必要があると思う。一つには大学版画研究会と美術館との関係をどのような立場に置き、どのような目的と仕事の関連性をもって実施してゆくかということである。初回を実施するにあたり、美術館の意向も打診して、本会の指向するものが何であるかを固めて置くことが重要と思われる。

未解決のまま継続審議中のものに、海外美術大学との交流展の実施要項の難がた作成がある。前向きに考え早急にまとめ上げ、懸案の一つ、東南アジアの美術大学との交流展の準備もそろそろ始めておきたいものである。

海外会員の問題も話題にあがったこともあったが、その後どうなったものだろうか、国際性を強めるためにも海外会員の輪を積極的に広めたいものである。

積み残しの事項も多々あり、次期事務局にもバトンタッチ。

無力の小生を助けてくださった会員の皆さん、特に書記の池田さん、会計の若月さん、心から感謝いたします。

事務局引き継ぎにあたって

有地好登

今年一月下旬、武蔵野美術大学版画研究室に於て、清水先生、若月氏より事務局引き継ぎをしてまいりました。

大学版画研究会が、昭和49年11月に発足して以来12年が経過し、その間各大学の交流・版画教室の充実・各大学の実情を踏まえたカリキュラムの検討など、大学版画教育の在り方を研究してまいりました。その結果、10年前と比較すると各大学とも設備・教育内容等が、格段に飛躍したことを考えるに、この研究会が果たして来た役割は、計り知れないものがあります。

この様な重要な研究会事務局を引き受けるにあたり、以前より覚悟してたとはいえ、実際に引き継ぎを行ない改めてその重大さに身が細る思いです。

これからの二年間は大学版画展や、カリキュラムの検討等に於て、一つの節目を成す時期において、微弱で経験も乏しい新事務局ですが、この使命を全力で全うするつもりですので、何卒、皆様の御力添えをお願い致す次第です。

インタビュー《女屋勘左衛門先生に聞く》

中林忠良

名誉会員である女屋勘左衛門先生が、ご入院療養中と聞いてお見舞いに伺った。糖尿病が原因で左足指を切断されたのが昨年暮れ、こんどは軽い脳血栓の発作を起されて路上に転倒、左大腿骨を骨折されてしまった。ご入院先の清水病院にお訪ねして、かねてから伺いたいと思っていた芸大出講当時の様子、あるいは石版事始めなどのお話をお聞きしてきた。

中林—今日は、先生、東京芸大においでになられた当時のことをお伺いしたくてやって来ました。何といっても石版画を正規に大学教育の中に持ち込まれたのは先生なんで、このあたりをはっきりさせておくことも、研究会としても必要なことですし、

女屋—そうですね。最初はね、芸大に小磯(良平)さんのリトグラフの試刷を持って行った時に、寺田(春式)さんがいてね、ここでも専門的に教えなければいけないなんて話をしていたんだ。誰かいい人がいないかなんて言ってね。そしたら小磯さんが、ここにいるじゃないかって—。そんなことだったんですよ。

中林—芸大では昭和41年に版画講座が認可されるんですが、今のお話はそれよりずい分前のことになりますね。

女屋—32、3年頃だったかね。それからしばらくして梅原(政幸・当時助手)さんが訪ねて来て、来てくれて言うんだ。それから山口薫さんが履歴書を出せていって来てね、僕はその時むかつとしたんだ、何言ってんだ僕の方から就職を頼んだ訳じゃないんだ、向うから来てくれてえから行くんだ、それを何だ履歴書を出せて。僕はへそまがりだからね。そしたら山口薫さんが、いや給料のことやなんかあるからって、それで仕方なく書いたんだが、学歴ってとこそ



そういうことが面白くないんだ。戦前に僕が就職する時にずい分妨害されたんだ、そのことでね。レッドパーズみたいだね、僕は学生運動やそういうこといろいろやっていたから—。それで小学校卒業とだけ書いたんだ。それで最初は、講習会みたいに始めたんだね。何のことはないね、まあその、僕のメンタルテストみたいなもんだったんでしょう。学校中のお偉方がみんな見に来てね、はあてな芸大というところはその、初めての時はこう人が立ち合うのかなと、だけど僕はそんなことはかまわないからね。それで講習会が終って後で考えて見た、僕はそれ、小学校卒業とだけしか書かなかったからね、だから、野郎どんなことを言うか聞いてみてやろうということじゃなかったのかね。

中林—そうですね、でもそれは珍しいからですよ。初めて版画の専門家を迎えたわけですからね。しかし、新しい形を受け入れようとする大学側の対応が見えるようで面白いですね。

で、そうした講習会を経て、やがて絵画科(油画、日本画専攻)の版画集中講義が開かれるということになりますね。

女屋—その時、駒井哲郎さんも来たんです。

— お二人の版画専門家を非常勤講師としてお招きして、ここによやく大学教育の中に版画的な正規な授業が行なわれるようになった。

それまで東京芸大では、図画師範科の後の教室を使って、松田義之(自在画・手工・用器画法・教授、昭34退官)が図画工作美術教育法の授業として銅版画・木版画を教えていた。女屋勘左衛門は昭和33~45年、駒井哲郎は昭和34~46年、小野忠重は昭和38~52年を非常勤講師として勤務。その間、小磯良平(昭和25~46年)、脇田和(昭和43~45年)油画教授が版画を兼任した。

(版画講座は昭和41年に認可、大学院美術研究科版画専攻は昭和38年に認可される。)

東京芸大における実質的な版画教育は、絵画科の集中講義として、石版画・銅版画の教育を始める(昭和34年と考えられる)この年、小作青史は油画専攻4年、中林・野田は1年であった。

駒井哲郎は昭和46年、退官する小磯良平の後を継いで助教授(昭和47年に教授)として就任、ここに始めて常勤教官を擁し、教育研究体制が整うが、それまでは油画助手が担当として版画を受け持っていた。集中講義開設当時は吉田俊雄、昭和36年から小松崎邦雄、38年からは今井治男がその任に当たった。

女屋-それでもね、初めは銅版も石版も一緒に授業したんだ。それから一年経って二つに分かれたんだ。

中林-そうですか。教室はあの音校の方の、あの当時は図書館があって、その裏手の木造の校舎でしたね。教室が中で仕切られていて、二段ほど段を下りたコンクリート床の方にエッチングプレスが置いてあって一。

女屋-狭いところでね。その上の方に石版のプレスが、3台か4台だったかな。

中林-僕が油画科の3年で版画の集中講義を受けたのが昭和36年ですからね。そうすると僕の受けた時はようやく軌道に乗ったところだったんですね。そうですか。

もちろん石版は女屋先生から教わりましたよ。

女屋-それから3年か4年経ってからね、小野(忠重)さんがやって来たんだね。

中林-その頃は僕は大学院、野田(哲也)氏は油画の大学院で、副科目で版画をとっていた。校舎は彫刻科払い下げのコンクリート床だったけど天井が高く、木版は二階の小さな教室でした。

女屋先生が教えていられた時代というのは、芸大でもまだ固まらなくてうろうろしていた時代ですね。だから教室もあっちこちに追いやられていましたね。ほら、プレハブの教室の頃もありましたもの。

さっきも言いましたけど、日本において大学教育の中に版画がちゃんと取り入れられたのは

ごくごく最近のことなんですよ。そうした最初の版画の種を蒔かれた先生のお一人が女屋先生なのです。

女屋-僕が入る時に、あれは学部長の小塚(新一郎)さんがね、僕は聞いたんだ、版画の何を教えればいいのかってね。そしたら小塚さんが、どういうことって版画の技術を教えればいって言うんだ。僕はね、頼まれたから仕方なしに行っただ。トマトのシチューみたいなものだったんだね。味が変わっていてね、色どりを添えるようなものだったんだね。

だから採点もしなかったんだ。それで脇田(和)さんが採点をするようになったんだ。だってね、たかが半年やそこらやったからって作品として優れているかいないか、わかりっこない。それから講義もね、そんなものやるよりは自由にね、画けばいいんじゃないかというのが僕の考えだから。まあ、いろんないきさつがあったんですよ。それが12年もいることになっちゃったんだから――。

中林-ところで、女屋先生と石版画の出会いというのは、どんなだったのですか。

女屋-僕の義兄が石版屋だったから。

中林-あ、そうですか。明治時代――。

女屋-いやいや大正ですよ。初めは珍しいからと見ていたんだね。義兄のところは手刷りで、機械が3台ぐらいあったのかね。僕はその姉の家に居候していたんですよ。そんな関係でね。お前こんなの画けるかと言われてね、画くぐらい画けるさって、本の表紙なんかね。その時分、画工というのがあった、しかし僕は画工にはならなかった。今はもう何も残っていないけどね、ずい分いろんなものを画いてね、刷ってもらったんだ。それで段々段々、工夫してね、だから僕のは自己流ですよ。

中林-その頃の状況というのは僕にはわかりませんが、まあ街の印刷屋さん。色刷なんかも盛んにやっていたんですか。

女屋-そうそう。うーんと18か19才だったね。それから田舎へ帰って、大正15年だったかね。でも田舎へ帰ってもすることがないから、それで手刷りの機械を一台買って、それで自分でやっ

てみたんだ。だから僕の刷る技術なんてまあたいしたことなかったんだね。そういうことやっていて、昭和5年にまた東京に出て来たんです。まあ東京でもなけりゃ仕事もなかったし。

(しかし義兄の石版屋はすでに廃業、止むなく自分で始めようとしたが営業は素人で失敗。一時は義兄の友人の石版屋に就職、しかし間もなく退職。)

だから僕は、こうジグザクジグザクしたもんだったですよ。でも自分の性格だったんだね、何かこう研究したいという気持が強くてね。戦争が始まると同時にそこを止めて、油の研究を始めるようになった。これは大きな力に、僕にはなったね。

中林—油の研究。それは石版画に関係ある。

女屋—そう、油脂の研究をね。実際、国産油脂化学研究所というのを作ってね、石版に使う材料の、クレヨンやら解墨やら乾性油の、いろいろやりましたよ。若いから無謀だったんだね。それが戦争がはげしくなってくると材料が手に入りにくくなってね、しまいには切搾油になってしまって、それがまた松根油になってしまうんです。

(戦争をはさんで先生もまた時代の波に翻弄される。石版画用の油脂研究がやがて時代の要求で旋盤機械の冷却用切削油の製造に、また航空機用の松根油の研究と指導に携わるようになる。戦後、この松根油を船舶用にと考えるがうまくゆかず、一時は印刷所に勤務もした。)

中林—しかしその間も、石版画にかける思いは消えなかった。先生がまた石版画にもどられるのはどういうきっかけだったのですか。

女屋—それはね、新制作の連中がね、石版やりたかってね、講習会に来てくれて言ってきたんだ。昭和28年頃だったかね。田園調布の研究所へ来てくれてね、猪熊や脇田さんがいて—そこで僕は石版画を講義しなくちゃなんないから、うん。そこでやって、それからですよ。

中林—じゃあ、その新制作の研究所に呼ばれたのが一つのきっかけで、今までの経験を生かして本格的に刷りを始められた。

女屋—そう、そう。そこには小磯さんや山口さんもいたね。それからこんどは、美術家連盟でも

始ったわけだ。美術家連盟ではやっている人がいたんだ。しかしその人が駄目でね、それでお前やれって—。

中林—ただ刷るだけの職人じゃだめですからね、この仕事は。絵画きの自由な気分っていうのをよくわかっている人じゃなくちゃ。ずい分いろいろな人を刷ったんでしょ。利根山光人とか北川民次、吉岡堅二とか—。

女屋—みんなね、よくやりましたよ。

中林—そうした経緯があって、芸大へいらっしやるようになる。なるほど。それから小作さんや田村さん、さらに東谷君や小林清子さんなど若い人たちが育って来た。

さらに芸大を退職されてから、東京版画研究所を主宰、そこでも沢山の若い人たちを育てられた。

いやー、長時間ありがとうございました。

インタビューは昭和60年8月13日、ご入院先の清水病院。車椅子に乗った先生と差し向いで、病院が空けてくれた診療室で行なった。案じていたよりずっとお元気で、リハビリを受けてからいろいろ石版画について書くつもりだと意気軒昂。近く東京版画研究所から「実験リトグラフ」を出版すべく、すでに準備を進められているという。

失礼ながら、老いてますます盛ん。先生のご健在を心から喜んだ。

帰りぎわ、このたび自費出版された「魂の浄化—アナーキーの実践とその消長」をいただいた。ちょっと意外な気がしたが、先生のなにものにも束縛されない自由で若い、そしてへそまがり人生の原点を見るような気がしたものだった。

インタビューから大分時日が経ってしまったが、その後、相模大野の北里病院に転院されたと聞いて、本年4月に再びお見舞いに上った。一時肺炎を患い体力を消耗されていたが、83才、いまだ意気健康で斗病を続けて居られることを報告しておく。

●インキ・補助剤

●エクステンダー 印刷インキに混和して、色をうすめるために用いる補助剤。ビヒクルと体質顔料からなり半透明状である。

●エマルションインキ 油性のビヒクルと水を乳化させたものに、顔料を分散させたインキ。主にグラビア、フレキソ、謄写版などに用いられる。

●乾燥抑制剤 印刷インキの乾燥を遅延、抑制するために用いる化学物質。インヒビターと称することもある。チョウジ油、ハイドロキノン、その他の物質が使用される。

●硬化剤 反応性樹脂を使用した印刷インキ、ワニス、塗料などに添加して硬化反応を進行させる物質。反応性樹脂の種類や反応条件によって硬化剤の種類も異なる。

●号外ワニス 植物油を加熱して高粘度としたワニスで、粘弾性と曳糸性が大きく、平版・凸版インキなどの粘ちょう性の調整に用いられる。わが国では、印刷ワニスは5号、4号……1号と数字の小さいものほど高粘度となり、号外ワニスは1号ワニスよりもさらに粘度の高いものである。

●コロタイプインキ コロタイプ印刷に用いるインキ。コロタイプ印刷の版面はゼラチン膜で形成されているので、版面を損傷する硬い顔料や、ゼラチン膜を硬化させるタンニン酸を含む有機顔料などは使用していない。インキは酸化重合型で、固めの調子が適する。

●コンパウンド 印刷インキに混和して印刷適性を調整、改善するための補助剤。インキの粘性を低下させ腰切りの役をするワックスコンパウンド、耐摩擦性を付与するノンスクラッチコンパウンド、インキの裏移りを防止するノンオフセットコンパウンドその他インキの種類目的とする効果により多種のコンパウンドが使用される。原材料としては、石油系ワックス、植物性ワックス、合成樹脂応用のワックス類その他がある。

●ビクトリヤ 平版・凸版インキの色をうすくするために使用する補助インキ。印刷適性を付与する性能もある。アルミナホワイトなどの体質顔料をワニスで練合したもので、透明性があるが若干淡黄褐色味を帯びている。インキに多量に混合するとインキの乾燥を遅くする傾向がある。

●マットインキ(つや消しインキ) つや消し印刷物をつくるためのインキ。一般に印刷物は光沢のすぐれているものが望まれるが、場合により光沢のない落ち着いたものが要求されることがあり、マットインキが使用される。平版、グラビアなど各版式用インキにマットタイプがあるが、グラビア印刷方式が効果的である。

●メジウム 印刷インキの色をうすくするための補助インキで、ビクトリヤと同様に使われる。メジウムという名称は一般に樹脂型インキの場合に使われている。色濃度調整の他、印刷適性の付与、光沢増大にも効果がある。

●〇〇ニス 油性タイプの印刷インキに希釈剤として用いられる最も低粘度のワニス。原料としては、あまに油、きり油などが用いられる。

●インキの原材料

●アゾ系顔料 アゾ基(-N=N-)をもつ有機顔料の総称。その構造中にスルホン酸基、カルボン酸基などの可溶性基をもつものと、もたないものとで、溶性アゾ系(アゾレーキ)と不溶性アゾ系に大別される。一般にアゾ系顔料に共通する性質として、次のようなことがいえる。1) 耐光性はあまり強くなく希釈するとさらに低下する。2) 着色力は、無機顔料より高い。3) 水には一般に不溶だが、有機溶剤、可塑剤、プラスチックには可溶なものもある。4) 耐熱性は一般に200℃以下で、250℃以上のは少ない。

●アルカリブルーナー 鮮明な青色ないし帯赤紺色のペーストで、以前繊維を染めるのに、このアルカリ塩が使用されたのでこの名が生まれたが、染料としては欠点が多く、現在は主に顔料の形で用いられる。着色力がはなはだ大きく、堅ろう度はアルカリ、溶剤に弱い熱、光に良。ブロンズ光沢のある青色印刷、カーボンブラックの赤味消しなどに用いられる。

●カーボンブラック インキに使用される黒色顔料。カーボンブラックの粒子は非常に細かく、多孔性で表面積が大きく、多量の揮発分を吸着している。揮発分の多いものはビヒクルと練るとよく分散し、インキの「ひき」が長く、揮発分の少ないものはインキの「ひき」が短い。前者をロングフローカーボンと呼びオフセットやグラビアなどのインキに使用され、後者をショートフローカーボンと呼んで新聞インキ用として多く用いられている。

●乾性油 薄い膜状で空気中に放置すると酸化重合により強じんな皮膜をつくる植物油。平版・凸版インキの主原料として古くから使用されてきた。あまに油、きり油、えの油などがある。

空気に触れても全く乾燥膜をつくらぬものを不乾性油(ひまし油、オリーブ油など)といい、これらの中間の性状を示すものを半鼠性油(大豆油、綿実油など)という。

●共重合体(コポリマー) 二種あるいはそれ以上の単重体を混合して行なう重合を共重合といい、

その結果得られた重合体を共重合体という。印刷インキに用いられているものには、エチレンと酢酸ビニル、塩化ビニルと酢酸ビニルなどの共重合体がある。

●紺青 古くから使われてきた代表的な青色顔料で、ミロリブルー、プルシアンブルー、アイアンブルーなどとも呼ばれる。JISでは、ブロンズブルーとノンブロンズブルーに分けられている。粒子が非常に細かく、鮮明で、着色力が大きく、緑青色から赤青色にわたる色合いのものがあり、耐光性、耐酸性はよいが、アルカリには弱い。

●酸化チタン（チタン白） 着色力、隠ぺい力が大きい代表的な白色顔料。結晶形の違いにより、アナターゼ型とルチル型がある。白さの点ではアナターゼ型がすぐれているが、ルチル型は着色力、隠ぺい力が大きく、チョーキング現象を起こしにくい利点を持っている。いずれも耐光、耐熱、耐溶剤、耐薬品など、各種の耐性が極めて優れている。

●ジスアゾエロー アゾ系の黄色顔料。耐光性がやや弱いが、耐溶剤性、耐熱性、耐薬品性、着色力がすぐれており、フローも良好なため、プロセスインキその他に広く用いられている。

●体質顔料 屈折率が小さい透明性白色顔料。他の顔料の増量剤、インキの性質を調節するための混和剤、あるいはレーキ顔料の体質として使用される。アルミナホワイト、炭酸カルシウム、硫酸バリウム、炭酸マグネシウムなどがある。

●単量体（モノマー） 重合反応によって重合体を合成する場合の出発物質。たとえばスチレンはポリスチレンの単量体である。また、天然に存在する高分子化合物（でんぷん、セルロース）などを構成する基本単位になっている化合物を指すこともある。モノマーはUVインキなどのビヒクル成分として使用される。

●銅フタロシアニンブルー 青色から緑色にわたる鮮明な色相を有し、着色力は紺青の数倍で耐光・耐熱・耐酸・耐アルカリ性の面で特に優れた性質をもっているため各種インキに広く用いられている。 α （安定）型と β （不安定）型の結晶形態がある。

●ビヒクル 印刷インキを構成している色料以外の液状成分。ビヒクルには2つの機能があり、1つはインキに適当な流動性を与え、インキつぼから版面へ、さらに印刷素材面へとインキを円滑に転移させる作用（印刷適性）、他の1つは印刷された後、乾燥して固体膜に変化し、顔料を印刷面に固着させる作用（乾燥性）である。インキの特徴や適性は、ビヒクルの性質に依存するところが大きい。

●フェノール樹脂 フェノール類とアルデヒド類の反応により得られる樹脂の総称。熱硬化性と熱

可塑性の二種類がある。合成樹脂類の中で最も古く発明されたもので、各種の性能が優れている。インキに用いられるものには100%油溶性フェノール樹脂と乾性油またはロジンで変性した変性フェノール樹脂がある。ロジン変性フェノール樹脂は流動性がよく、光沢がある上、速乾性のため、オフセットインキに多く使われている。

●ブリリアントカーミン6B 紅インキに使用される最も代表的なアゾ系顔料で、色は底色の青い深紅色を有し、ブロンズもある。また、着色力が大きく価格の割には耐光・耐溶剤性に優れているので、各種インキに広く用いられている。

●ポリアミド樹脂 不飽和脂肪酸とポリアミンとの反応で得られる樹脂。単一溶剤には溶けにくいのが、低級アルコールと芳香族炭化水素の混合溶剤にはよく溶ける。ニトロセルロース、フェノール樹脂、マレイン酸樹脂とは相溶性があるが、塩化ゴム、アクリル樹脂、ビニール樹脂などとは相溶性がない。耐酸、耐アルカリ性で、各種プラスチックなどに対する付着性が優れており、強じん度で光沢のある塗膜をつくるので、グラビア、フレキシインキのビヒクルに広く用いられている。

●レーキレッドC 金赤系インキに使用される代表的な顔料。色は、鮮明な橙赤色で、ブロンズが多い。練肉しやすく、インキ化したときの適性も良好であるが、耐光性はやや弱い。

●インキの性質

(1) 故障

●色わかれ 極性や比重の異なった顔料を併用した場合に起こる色の分離。印刷インキの中で比較的低粘度であるグラビアインキ、フレキシインキに起こることが多く、チタン白、紺青、フタロシアニン、カーボンブラックなどの顔料が起こしやすい。使用時に攪拌すれば、支障がないこともある。

●ウォッシング 平版印刷中に、湿し水によりインキから顔料が分離し、湿し水に分散する現象。版には感じないが印刷物をよごすことが多い。顔料が親水性で、ビヒクルとの濡れが不十分であることが原因。

●裏ぬけ（ストライク スルー） 紙の表面に刷ったインキのビヒクルが裏面までしみ出すこと。しみ通しともいう。褐色の油分がにじみ出たり、ひどい場合には顔料も一緒に浸透してインキの色が裏までぬけることもある。浸透性の大きい紙に低粘度のインキを厚盛りした時に起りやすい。

（次号に続く）

※ 印刷インキ工業連合会刊 印刷インキハンドブックより抜粋。

● シアトルの事

黒田茂樹

1984年9月1日、シータックエアポートに6個の大型トランクと手荷物、それに妻と娘と共に到着。3度目のシアトルであるが以前と異なり、今回はここシアトルを拠点に十ヶ月半の間、昭和59年度文化庁派遣在外研修員として研修生活をおくらねばならないという事であった

研修施設として私が選んだのは、シアトルのダウンタウンより約2kmほどの所にあるコーニッシュインステチウトという小さなカレッジである。この学校は、美術・デザイン・音楽・ダンス・演劇などの科があり、学生はフルタイムとパートタイムにわかれており、学生は好きなクラスを取る事が出来るわけである。このようなシステムは、日本の大学にくらべると非常に自由で解放的であるが、学生の技量や質にははなはだしい差が生じる様である。私が見学したニューヨーク、フィラデルフィア、サンフランシスコ、ボストン、シカゴなどの大学や施設においても同じような状況であったが、学生の作品はパワフルで独創性にあふれていたように思う。

美術科主任教授のジョン・オーバートン氏は、私の友人であり私の研修のため色々と便宜をはかってくれた。版画のスタジオは約50坪ほどの室が2つと暗室があり湖に面した明るい室であったが、設備はエッチングとリトグラフのプレス機が一台づつと非常に貧弱なものである。他にベンチレーション付の腐蝕設備と感光台、この感光台はコダック社製コンピュータ付きでなかなかのもので、私の研修課題であるカラーフォトエッチング研究のためにずいぶん活躍してくれたものである。

私はここでフルタイムの学生として研修を行なったのであるが、ここでの授業はすべて学生の質問に教授が答えるという形で行なわれ、学期末に行なわれる批評会では、教授が学生に質問するという形で進められる。当然のことであるがこの徹底的な質疑応答形式の授業は、全米の大学で見ることが出来た。私も始めのうちは、学生から技法や、作品の内容について質問責めに合い、閉口したものである。しかしそれで毎日2時間あまり、英語の研修が出来た事は幸いであった。1ヶ月もたつと現地での生活もなれて色々な事が理解出来るようになった。学生食堂の、まずいスープにもなれたし、研修も順調にすすんでいたのも、東部へ旅行に出ることにしたのはその頃であった。ニューヨークには研修前期に一度行っておかなけれ



ばならない。

ニューヨークは兎に角すばらしい所である。このように言うと、何故今回研修地をニューヨークにしなかったのかと思われるかもしれないが、私には色々と考えるところがあり、シアトルを選んだ。これは今でも正解であったと思っている。それは十ヶ月半という研修期間では、ニューヨーク以外にいた方がアメリカを良く見れると思ったからである。その点、シアトルは最適地であった。

コーニッシュ校は、アメリカ抽象表現主義を代表する作家の一人である、マーク・トビィが、かつて教鞭を取った学校であり、マーク・トビィや、モーリス・グロウブなどが、その初期の活動をシアトルで行なったのである。また、現在シアトルはプリントメイキングの盛んな所で、多くの作家が在住して活動しているし、全米でも有数のコレクターが在住していて、文化活動も盛んである。

ここ、ワシントン州には全ての自然がそろっている。スタジオの前の木には、リスや小鳥が住んでいるし、ピージェトサウンドに沈む夕陽は、この世のものとは思われぬ美しさである。アメリカ美術の研究にはこのアメリカの自然をぬきにしては考えられないと思う。ニューヨークか、シカゴのギャラリーで、完成品を見てまわっても、その本質には近づく事は出来ないし、理解する事も不可能である。そしてシアトルにおいて、アメリカ美術を研究する上で重要な位置をしめるインディアンアート、アメカンフォークアートの作品を多く見る事が出来た。

近代ヨーロッパ文化とアメリカ文化とが融合して一つの秩序をもって完成したアメリカ美術は現在若い作家達によって造りかえられている。彼らは純粋なアメリカンであり、彼らの感じる危機のリアリティを模索しているのである。近い将来彼らはその確かなリアリティー「タンジェンダブルリアリティー」を町の片隅からつかみ出す事であろう。

● ミネソタ大学版画カリキュラム

前略

大学版画研究会々報をお送りいただきありがとうございます。

ことに14号の大学版画教育現状調査は私自身にとっても参考になりました。

多分、私への依頼もこの線に沿っての外国版のことと思われませんが、何分、私の渡米の目的は木版画の指導と自分自身の制作が主であり、米国の版画教育の事情調査ではなく、ご期待に添えるかどうか不安です。

薄れかけた記憶と、手元の資料をつなぎ合わせではみますが、いずれにせよ、客観性のない印象記に過ぎません、取捨のほど、よろしく。

(原文のまま)

● ミネソタ大学、美術学部 版画科

一アメリカ合衆国ミネソタ州ミネアポリス一

総合大学で州内に4ヶ所のキャンパスがある、学生数約6万と聞く。中心は、ツインシティのミネアポリスとセントポールにあり、常時活動している校舎が200前後、美術学部もこの一部にあり、ミシシッピ川のウエストバンクにある(STUDIO ART DEPERTMEUT) その中に版画科があり。(A図)

レリーフ教室、平版教室、石版教室の3教室を有し、他にシルクスクリーンの教室が共通の学習の場として用意されている。

それぞれの教室には、美術を専攻する学生と教養科目として単位を得るために学習しているものとマスターコース(大学院生)がいっしょに授業を受けている。

教室内の器具の配置はB図のようである。美術の教授は22名で、うち版画部の教授が3名(各教室各1名)

- ・リトグラフ ジェラルド・クレップス
- ・銅版画 マルコム・マイヤー
- ・木版画 カール・ベスク

美術学部長のマッケンジー教授は、バーナードリーチのまな弟子で、日本の民芸運動家たちとも親交があり、日本を訪れたこともある陶芸作家である。

私が所属した版画科は凹凸平の3コースに分かれ、それぞれ充実した内容を持っている。

凹版コースを例にとってみても、ゆったりとし

たスペース(日本の小学校の体育館ほど)に電動の大型エッチングプレスをはじめ数種のプレスが置かれ、各種の表現に応じた装置が完備され、薬品、材料の収納庫、付属して金属板腐蝕室もありそこでひとつの講座に20名ほどの学生が授業を受けている。

朝8時から夕方5時過ぎまで、銅、石、木版の制作をした。

時に私の木版画講座では、日本から持参した版木、彫刻刀を用いての伝統的手法による5色刷りのミネアポリスの風景を資料に用いた。

教授や若い学生たちと材料、用具、技法について話し合った。

浮世絵版画と現代版画の違いを話し、20点ほどの私の作品と多色刷り木版の制作手順を示す作例による技法の解説に、刷りの実技指導を加えた内容は好評であった。

学生の使っている彫刻刀は日本のものと類似している。文具店で、多種類の和紙を手に入れることができる。

刷りは、木製のブロックかスプーンを使っている、「ばれん」の軽さ、にぎり、すべりのよさに驚き何枚も試し刷りをやって歓声をあげていた。

ほとんど油性インクを用いている。

講座に参加する学生の学習態度は真剣で、冬期講座のスタートから平版部では、いきなりジnkの全版に挑み、凹版部は、1日で下絵、製版、刷りをやりとげ、凸版部では、教授の刷りのデモンストレーションに目を輝かせ質問にも熱がこもる。9時15分の授業前に何人かが制作に取りかかり、放課後や授業のない日にも朝から夜の10時までスタジオにこもる。

1年を4期(夏は特別講座)に分けた講座に4日欠席すれば、単位の取得は不可能。一期に試験レポート(美術の場合は作品)提出がそれぞれ2回あり、AからFまでの評点をつけられ、ABCが通過で1度Fがつけば絶望であるという。

レリーフプリント教室で2月の1週目に試験があったが、木版の技法、材料、用具、美術の中の版画のあり方。エディションについての考え等々問題の記された用紙。答えは、ノート1冊にびっしりと書く午前中いっぱいかかる論文である。

その解答をしている間に、担当教官が、個々の学生を呼びよせ1ヶ月たらずの間に、松材の木版を使っての大小の単色刷りの木版画、色彩版画、物体版画をそれぞれ、数種の和紙に油性インクで刷りあげた作品群を持参させ、制作意図を問い、評価をする。

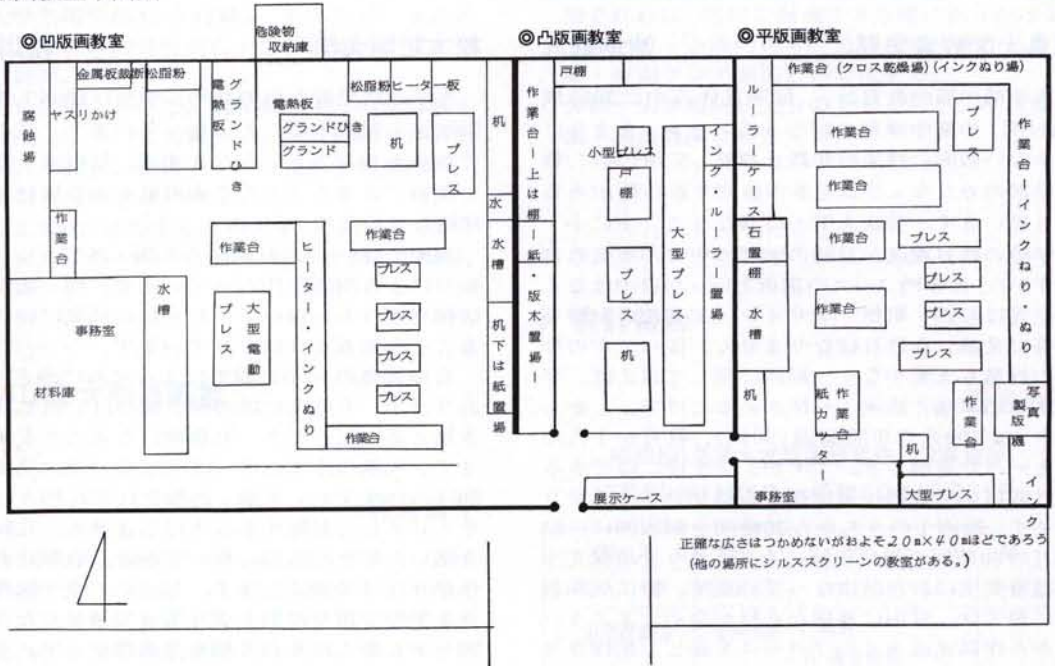
学生達の表現のほとんどは、非具象である。版画科には5人の院生(M.F.A)がいて、二人

組づつのアトリエが用意されている、時には教授にかわって授業をすることもある。

二人の院生の作品合評会に三人の教授と共に加わったが、4時間も激論をかわすほどの厳しさであった。

キャンパス内には、美術館がひとつと、画廊が6ヶ所あり、2、3週間を単位に、教授や学生による個展やグループ展が開かれている。

● ミネソタ大学・芸術学部・美術科
版画教室平面図



● ミネソタ大学 ウェストバンク
美術学部校舎教室配置図





徳島大学教育学部

津地威汎

本学部の版画教育は、毎年夏休み中に30時間(4日間)の集中講義で行なっています。あまりにも少ない版画的授業時間数を理解して頂く為に、教育学部のカリキュラムを多少説明する必要がありますかと思ひます。美術大学とは異なつて、主に小・中学校の教員養成が目的の学部の中での美術教育ですから、各専門コースの選択といった自由はなく、学生達は絵画・彫塑・デザイン・工芸の各分野を均等に受講しなければなりません。従つてどの分野の授業も大変少なく、絵画に関して言えば、卒業までに素描と絵画I~IVがあるだけで、しかも1コマが100分で年間30週(30回)、教官が1人だけといった有様です。ですが、学生達にはできるだけ幅広い分野の仕事に接する機会を与えてやりたいと、絵画Iのうちから30時間を銅版画に、絵画IIの30時間を現代美術にあて、各々を清塚先生と榎倉先生にお世話になっています。特に版画教育に於ては、県内に適切な人材がなく、エスキースから作品完成までのプロセスを正しく把握させる為に、専門家に来て頂く必要がありました。第一線の作家と触れ合う事によって、受ける刺激もまた大きいようです。

この授業は2年生の必修単位ですが、1年生と3年生には強制的に、4年生には自由に受講させています。年に一度の集中講義だけで終つてしまいますから、少なくとも3回同じ事を繰返させることによって、最低限の事だけは覚えてもらおうというのが狙いです。また、それが本学部の版画教育の実情でもある訳です。受講生は各学年10人平均ですから、30人程度です。

清塚先生には、前任の先生の時に3回、私の在任中に8回、実に11年間にわたつて御教授頂きました。60年度の授業をもちまして、徳大の教育学部が総合科学部に改組される為、一応版画的授業は終了致しました。私も61年度から鳴門教育大学に転職しますので、徳大の報告はこれが最初で最後となります。尚、徳大とは吉野川を挟んで目と鼻の先にある四国女子大学短期大学部で、59年度より、清塚先生の版画集中講義が新しく始まつている事を付け加えて置きます。

松本短期大学

松川幸寛

本学は幼児教育科のため、学生は図画工作・絵画制作を履修することになっています。このなかで版画も扱うこととなりますが、幼稚園・保育園で実践できるものとして画用紙を主な版材として使用しています。

演習では一つの原画から孔版・凸版・ローラー転写による版画を作らせています。同一版材でも、版種や刷り方の違いでそれぞれの効果に特徴があることを知るようになされています。

夏期課題の一つに線香による穴あけ画を出してあります。その穴に絵の具を通せば、色で絵が置き換えることができ、孔版画になることを確認させて、孔版の作製に入っています。次に凸版の作製に入りますが、孔版・凸版それぞれ別々に原画をトレスして製版することはしません。孔版で切り抜いた形を凸版用にとっておき、台紙にそれらを貼り付けて版にします。しかし、少々無理がありますので新たに形を切り取つて補足したり、構図を少し変えたりして版を完成させます。ローラー転写は凸版からのみ版画にしています。刷りは、中性インク・水彩絵の具を使って――

- ・孔版 — タンポ・ローラー・筆・ボカシアミ
- ・凸版 — バレン・ローラー

で刷りあげます。

高校までに触れたことのない版材・版種の版画を学生達に経験させたいと思いますが、設備の不十分なこと、幼児教育の現場で可能なものを中心として考えますと、本格的な版画は今のところ無理な状況です。

ここ3年ほどの調査で、半数以上の学生達が造形表現は嫌いと答えている。(その判断は塗り方・描き方など、技術的な面の上手下手で決めているようです。)私が今学生達に希望しているのは、版画に限らず自分の考え・感じていることを自信を持って表現すること、表現する楽しさを知つてほしいということです。

▶ 経過報告

● 昭和60年度総会

池田良二

- 9月2日、東京丸ノ内画廊にて開催。
- 第10回大学版画展の開催。出品校43校。総作品数127点。
- 各大学における版画教育の現状調査結果について、池田良二からの報告。(会報14号参考)
- 会報について。14号の発行にあたり園山晴己氏(造形大)からの報告。
- 会報編集委員の任期と移動。新編集委員。園山晴己(造形大)。筆塚稔尚(芸大)。皆川孝一(日本大学芸術学部)。木村繁之(多摩美大)。4氏の承認。他に専門学校から1名の追加を予定。次回に検討。
- 海外交流展について、昭和60年第1回臨時総会での決定についての報告。会期昭和60年10月31日～11月19日。会場タイラー美術学校画廊。
- 会員の入会申込者の承認。
西村正幸氏(京都市立芸術大学)の入会を承認。
- 賛助会員 ヌーベルセンターの退会希望の承認。

● 昭和60年度臨時総会

若月公平

- 12月7日、東京文化会館中会議室にて開催。
- 60年度会計報告。
- 第10回大学版画展の報告。搬入出・陳列に列して、額の破損事故等があるので、出品者にも出品規定の配布・連絡により何らかの処置を構はること。ポスターの配布等についても6月20日頃には各大学に配布する。
- 今後の会場の件。61年度は丸の内画廊にて開催(予定)。62年度以降は町田国際版画美術館が開館されれば、町田で開催できる様に働きかける。
- 展覧内容・企画の再考。過去の買上賞作品の並展・東南アジア諸国との交流展等。
- 会報を大学版画研究会のPRとして、全国美術館・関連機関に発送する。

▶ 第10回大学版画展

若月公平

第10回大学版画展が丸の内画廊に於いて、新日本造形(株)、丸の内画廊、日本版画保存会その他の協賛により、9月2日から9月15日まで開催された。案内状、目録は武蔵野美術大学、ポスターは日本大学、アルバムは東京芸術大学で担当した。

出品校43校、127点の力作が展示され、内34点の作品を選び、刷り増しを加え、68点の買上賞を取った。34点は版画保存会に、残り34点はそれぞれ協賛社に頂いてもらった。芳名録の人数は400名であったが実際の入場者数はもう少し上まわるのではなかろうか。

“大学版画展”のとらえ方を自己確認的(指導した教師としてまた、作者としての学生)なものとするのか、一つの企画展としてのアイデア、おもしろさや、大学版画研究会の対外的なアピールとするかで展覧会の評価は別れてくると思うが、前者の方として見た場合、ある程度成功しているのではなかろうか。それぞれ学校間、個人個人の特長や良さ、または弱さを見ることが出来、研究会の一会員として私は多に勉強になった。今後、両者のとらえ方で見て成功出来る大学版画展が開催されるよう努力して行きたい次第です。

丸の内画廊及び各大学の協力に依り展覧会がスムーズに運営できました。誌面を拝借し感謝の意を表します。

▶ 会計報告

昭和60年度大学版画研究会 決算報告

昭和59年11月1日～昭和60年10月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
1 前期繰越金	590,466	1 経費	
2 収入		A 通常経費	
・通常収入		事務費	35,901
会費	315,000	会議費	41,232
預金利息	3,570	交通費	3,700
前事務局残金	15,000	通信費	188,950
・事業収入		小計	269,783
賛助会費	760,000	No.13 会報	349,170
アルバム代金	152,000	B 事業経費(展覧会)	
収入合計	1,245,570	オープニング	81,800
		買上賞金	170,000
		アルバム制作費	200,850
		ポスター	59,000
		案内状	60,000
		目録	42,600
		事務、その他経費	25,930
		小計	640,180
		C 経費合計(A+B)	1,259,133
		2 次期繰越金D-C	576,903
D 合計	1,836,036	D 合計	1,836,036

● 昭和61年度第1回臨時総会 皆川孝一

5月17日、日本大学芸術学部美術棟事務室で運営委員会後、美術棟402教室で61年度第1回臨時総会を開催。出席会員25名、他に委任状提出会員により進められた。有地好登事務局長を議長、書記、皆川孝一として下記の議事を行なった。

○昭和61年度大学版画展について検訂し、昨年同様、丸の内画廊で会期を二つに分け、Aグループ、7月21日～26日、Bグループ、7月28日～8月2日。(なお昨年度とグループを交替)アルバムは予約制にして作成という事で承認された。

○61年度以降大学版画展について。62年度から丸の内画廊の都合で版画展を行なう事が出来なくなり、町田国際版画美術館で行なえる様、東京芸術大学、中林忠良氏が中心となり交渉していく。

○会報について。東京造形大学、園山晴己氏より報告、15号が発刊が延び7月の展覧会にあわせて発刊。

○事務書類等処分について。交流展で戻った作品は買上げ作品不足時に補給する。会報は資料として各百部づつ残し、版画展の時売却する。アルバムは購入していない学校に働きかけて行く。不必要な事務用品、DMは処分する。

○交流展について。タイラー美術学校に引き続き、韓国弘益大と交流展についての話が東京芸術大学、中林忠良氏より有。町田国際版画美術館を使用する件とからませながら交流展を考えていく。なお交流展については中林氏に話を進めてもらう。

○その他として。東京造形大学、園山晴己氏より提案あり、会報で掲載したカリキュラム資料をまとめてほしいとの事で分科会で検訂する事に決まり、武蔵野美術大学、清水昭八氏、池田良二氏を中心として分科会を行なう。メンバーは清水昭八氏に一任する事を承認した。

○会員移動報告、入会申込者の承認。新会員に、若杉雅夫氏(東海女子短期大学)の入会を承認した。退会希望者の承認、賛助会員、レッドランタン版画舗。住所変更、野田哲也氏(東京芸術大学)千葉県柏市亀甲台2の14の4、賛助会員、サクラクレパス、東京都台東区蔵前3の20の2。に変更。

第1章 総 則

- 第1条 本会は大学版画研究会と称する。
- 第2条 本会は会員相互の協力により大学に於ける版画教育の進歩発展をはかることを目的とする。
- 第3条 本会の事務所は大学の版画研究室におく。

第2章 事 業

- 第4条 本会は第2条の目的を達成するために下記の事業を行なう。
 1. 機関誌、出版その他、研究調査に関する事業
 2. 研究協議会の開催。
 3. 研究のための専門委員会または部会を設けることがある。
 4. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第3章 会 員

- 第5条 本会は会員を以て組織する。
- 第6条 会員は大学に於て版画教育に関係する者で入会の手続きを完了した者とする。
- 第7条 会員は別に定められた会費を納入しなければならない。

第4章 組織及び運営

- 第8条 本会の事業を運営するために次の役員をおく。
 1. 会 長 1 名
 2. 事務局長 1 名
 3. 運営委員 若干名
- 第9条 会長は本会を代表する。
- 第10条 事務局長は庶務、会計、事務を総括する。
- 第11条 運営委員は事業、運営の企画を執行に当る。
- 第12条 本会に名誉会員、相談役、顧問、賛助会員をおくことができる。
- 第13条 役員は総会において選出する、任期は2年とし再任を妨げない。
- 第14条 本会の会議は総会、運営委員会、専門委員会とする。
 1. 総会は年1回開き、本会の事業および運営に関する重要事項を審議決定する。会長は必要に応じて臨時総会を召集することができる。
 2. 専門委員会は内容に即して会長が召集し案件の作製、審議に当る。
 3. 運営委員会は会長が召集し、本会運営の企画に当る。

第5章 会 計

- 第15条 本会の経費は会費及び賛助会費をもってこれにあてる。

附 則

1. 第7条による会員の会費は年額3,000円とする。
2. 運営のために必要な細則は別に定める。
3. この会則は昭和59年8月18日よりこれを施行する。

▶ 名誉会員名簿

小野忠重	東京都杉並区阿佐ヶ谷北2-25-16 〒166	
女屋勘左衛門	東京都目黒区本町1-10-3 〒152	
小磯良平	兵庫県神戸市東灘区住吉町丸山御影グランドハイツ3-411 〒658	
末松正樹	東京都世田谷区奥沢2-17-22 〒158	
田中忠雄	東京都東久留米市学園町1-14-34 〒180-03	
平塚運一	7203 Connecticut Avenue chevy chase MD 20015USA	
福沢一郎	東京都世田谷区砧8-14-7 〒157	
村井正誠	東京都世田谷区中野1-6-12 〒158	
脇田 和	東京都世田谷区代田4-14-2 〒155	

▶ 会員名簿

相笠昌義	座間市立野台540 〒228 TEL0462-54-0279	多摩美大
相沢美則	杉並区久我山5-1-22 〒168 TEL03-334-9521	文化学院
青山光祐	山形市大字七浦497 〒990-21	山形大
秋元幸茂	滋賀県大津市稲葉台13-10 〒520 TEL0775-25-7927	滋賀大学
朝比奈逸人	池田市井口堂3-196 新加納苑103 〒560 TEL06-853-4269	大阪教育大
天野純治	神奈川県三浦郡葉山町長柄1601-366 〒240-01 TEL0468-75-8689	多摩美大
有地好登	狭山市北入曾526-10 〒350-13 TEL0429-57-8468	日本大学芸術学部
安間寛行	山口県吉敷郡小郡町大字上郷山口芸術短大内 〒754	山口芸術短大
池田良二	武蔵村山市伊奈平5-43-3 〒190-12 TEL0425-60-1165	武蔵野美大
稲田年行	町田市三輪町1939 〒194-01 TEL044-988-3339	岐阜大
今井治男	金沢市鈴見台4-5-15 〒920-11 TEL0762-44-5603	金沢大
伊東正悟	柏市逆井1668-99 〒270 TEL0471-72-7830	造形大 常葉短大
上野秀一	埼玉県北葛飾郡庄和町大字米島1186-116 〒168 TEL03-334-3791	文化学院
梅津 薫	北海道岩見沢市緑ヶ丘4-221-90 〒068 TEL01262-4-1975	北海道教育大
大塚恵子	宮城県仙台市長町2-13-21 〒982 TEL0222-48-6853	三島学園女子大
大槻紀雄	泉市加茂2-16-19 〒981-31 TEL0223-37-8-3610	三島学園女子大
小川正明	板橋区板橋3-26-5 〒173	女子美大 武蔵野美術学園
大原雄寛	京都市伏見区日野岡西町4-53 〒601-13 TEL075-571-6271	成安女子短大
奥井章夫	京都市左京区下鴨下川原町47 〒606 TEL075-791-1668	京都文教短大
奥定一孝	松山市東野5-1-19 〒790	愛媛大

小野克子	昭島市西武蔵野1388 〒196 TEL0425-43-0891	女子美大
小作青史	世田谷区羽根木2-32-6 〒159 TEL03-321-7221	多摩美大
小山松隆	千葉県習志野市袖ヶ浦2-6-4-506 〒275 TEL0474-74-6586	日本大学芸術学部
大本 靖	札幌市中央区円山西町3-4-3 〒064 TEL011-611-0722	北海道教育大
岡部昌生	札幌群島町字西の里379-211 〒061-11	札幌大谷短大
鎌谷伸一	横浜市金沢区並木二丁目7-3-508 〒236 TEL045-785-4703	芸 大
神山泰治	那覇市首里石嶺町4-173-11 〒903 TEL0988-85-5814	琉球大
河西万文	山梨県大月市猿橋町殿上483-1 〒409-06 TEL05542-2-6174	都留文科大
河内成幸	多摩市桜ヶ丘4-26-33 〒192-02 TEL0423-71-4687	福岡教育大
川西祐三郎	神戸市東灘区御影山手1-7-11 〒658	兵庫教育大、奈良教育大
加藤清美	世田谷区桜上水1-10-3 〒156	女子美大
加藤れい子	埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008 〒350-13 TEL0429-53-9174	女子美大
加藤茂外次	愛知県春日井市岩成台8-4-1 岩成台西団地601棟212号 〒487 TEL05616-2-5404	名古屋造形芸術短大
加山又造	横浜市鶴見区東寺尾5-3-29 〒230 TEL045-573-6675	多摩美大
城所 祥	八王子市本町35-6 〒192 TEL0426-22-5857	武蔵野美術学園
清塚紀子	板橋区上板橋2-48-2-808 〒173 TEL03-955-2300	造形大
木村秀樹	大津市比叡平3-10-5 〒520	嵯峨短大
木村繁之	国立市中1-17-1 〒186 TEL0425-73-3025	多摩美大
小林清子	川崎市宮前区野川4090-1 野川住宅2-403 〒213 TEL044-751-0483	女子美大
小林次男	日野市高幡566 高幡市営団地204号 〒191 TEL0425-93-3273	東洋美術
小林基輝	埼玉県三郷市早稲田1-13-10 〒341 TEL0489-58-2031	女子美大
黒田茂樹	横浜市金沢市六浦町303 〒236 TEL045-781-4715	東洋美術
斎藤寿一	川崎市幸区塚越3-375 〒210 TEL044-522-2007	和光大
佐藤行信	武蔵野市吉祥寺東町2-6-10 和光荘6号 〒180 TEL0422-21-8992	東洋美術
酒井忠臣	福岡県宗像市田熊1254-35 〒811-34 TEL09403-7-0728	九州産業大
笹本 純	秋田市寺内見桜281-4 見桜住宅1-406 〒011 TEL0188-33-5261	秋田大
坂田和之	静岡県藤枝市若王子2-14-10 〒426 TEL0546-43-5921	常葉短大
渋谷和良	福生市福生1983 アメリカンビレッジP32 〒197 TEL0425-52-4892	芸 大
設楽知昭	愛知県久手町岩作字三ヶ峰1-1 大学教員住宅4-4 〒480-11 TEL05616-2-7447	愛知芸大
嶋 剛	大津市御殿町1-3 別所合同宿舍1011 〒520	滋賀大

▶ 会員名簿

- 清水昭八** 小金井市梶野町4-16-27
〒184 TEL0423-83-3733 武蔵野美大
- 清水 敦** 札幌市豊平区月寒東4条16丁目5-2
〒061-01 TEL011-851-9640 北海道女子短大
- 島田章三** 名古屋市長和区高峰町143-18
〒466 TEL052-832-9385 愛知芸大
- 白井嘉尚** 静岡市小島3-4-1 静大宿舍214
〒422 静岡大
- 白木俊之** 茨城県新治郡桜村梅園2-8-13
〒305 TEL0298-52-0710 筑波大
- 園山晴己** 世田谷区野毛2-19-2
〒158 TEL03-701-6563 造形大
- 傍嶋康博** 千葉県船橋市喜野井4-8-14
〒274 TEL0474-63-3240 都留文科大
- 田中 孝** 大津市比叡平2-14-18
〒520 TEL0775-29-0530 京都精華大
京都芸大
- 田村文雄** 小平市学園西町2-12-8
〒187 TEL0423-43-7282 女子美大
- 武市 勝** 山口県山口市大内御堀2980-6
〒747-13 山口大
- 高山 登** 仙台市ひより台47-8
〒980 TEL0222-43-2605 宮城教育大
- 滝 純一** 宗像市宗像町日里5-1-4-402
〒836 TEL0940-36-0493 福岡教育大
- 滝沢光広** 愛知県一宮市大和町代永1219
〒491 TEL0586-44-3330 名古屋造形短大
- 長宗我部 友子** 大津市比叡平3丁目42-14
〒520 TEL0775-29-0376 成安女子短大
- 津地威汎** 鳴戸市鳴戸町高島
〒772 TEL0886-(87)-1311 鳴戸教育大
- 辻 親造** 名古屋市中村区稲葉地町7-1
〒453 名古屋造形芸術短大
- 永井研治** 八王子市市安町1-29-1
〒192 TEL0426-44-4476 武蔵野美大
- 中林忠良** 埼玉県上福岡市駒林437
〒356 TEL0492-63-1970 芸大
- 柳楽節子** 兵庫県神戸市長田区上池田3-11-12
〒653 TEL078-691-8354 兵庫女子短大
- 西 真** 京都市北区平野上柳町28-21
〒603 TEL075-462-2258 嵯峨短大
- 西村正幸** 大阪府八尾市太子堂1-2-1
〒581 TEL0729-23-1528 京都芸大
明石短大
- 野沢博行** 岡崎市明大寺町字狐塚14-2サンハイツ岡崎A-407
〒444 愛知教育大
- 野田哲也** 柏市亀甲台2-14-4
〒184 TEL0471-03-5332 芸大
- 馬場 章** 川崎市宮前区宮崎1-5-23 峰尾ビルB-203
〒213 TEL044-855-8217 女子美大
- 馬場禱男** 横浜市金沢区富岡西4-7-20
〒236 TEL045-772-1770 造形大
- 橋本文良** 京都市北区紫竹西北町33-12
〒603 京都精華大
- 塙太久馬** 川崎市多摩区塚42-9
〒214 TEL044-822-8492 武蔵野美大
武蔵野美術学園
- 浜西勝則** 秦野市千村742-15 小田急浜沢ハイソ1-508
〒259-13 TEL0463-87-3779 東海大
- 原 健** 世田谷区野沢3-13-17
〒154 TEL03-421-2980 造形大
芸大
- 平川晋吾** 宇都宮市峰町350
〒321 宇都宮大
- 広畑正剛** 世田谷区赤堤3-5-2
〒156 TEL03-324-0532 玉川大
- 深尾庄介** 世田谷区下馬3-17-2
〒154 TEL03-414-6034 造形大
跡見短大
- 深沢幸雄** 千葉県市原市鶴舞308
〒290-04 TEL0436-88-2034
- 福岡泰彦** 上越市西城町1-10 西城宿舍1-203
〒943 TEL0255-22-0807 上越教育大学
- 吹田文明** 世田谷区砧3-33-4
〒157 TEL03-417-7123 多摩美大
- 深草広平** 佐賀市本庄町西寺小路884-3
〒840 TEL0952-22-1751 佐賀大
- 星野美智子** 杉並区善福寺1-14-10
〒167 TEL03-390-5517 女子美大
- 藤岡 慎** 横浜市戸塚区上郷町1707-19
〒247 TEL045-894-4923 多摩美大
- 筆塚稔尚** 所沢市上新井784-4
〒359 芸大
- 古川仁史** 八王子市中野山王2-5-22
〒192 TEL 造形大
- 堀井英男** 八王子市宇津木町940-79
〒192 TEL0426-45-3756 創形
- 前川 直** 岩手県盛岡市茶畑1丁目1-6-411
〒020 岩手大
- 舞原克典** 守山市川田町1548-13
〒524 TEL07758-3-0028 京都芸大
- 松川幸寛** 松本市空港東区8775-31
〒390-11 松本短大
- 松浦 昇** 岐阜県大垣市上面二丁目提唐
〒503 大垣女子短大
- 松島順子** 大田区田園調布4-29-25
〒145 TEL03-721-3062 女子美大
- 丸山浩司** 福島市上荒子1-1 上荒子住宅2-202
〒960 TEL0245-31-4393 福島大
- 馬淵 聖** 神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511-2
〒253 TEL0467-51-1497 広島大
- 皆川孝一** 狹山市北入曾521-3
〒350-13 TEL0429-59-2527 日本大学芸術学部
- 宮田克人** 高知県高知市小津町10-41-532号
〒780 高知大
- 宮下登喜雄** 府中市新町1-12
〒183 TEL0423-61-5634 学芸大
福岡教育大
- 武蔵篤彦** 名古屋市中区山木2-34-3
〒452 TEL052-502-1472 名古屋芸大
- 村上文生** 京都市右京区太秦原面影町6-1
〒616 嵯峨短大
- 村上善男** 弘前市御幸町16-19 北奥舎
〒036 弘前大
- 森 俊夫** 京都府綴喜郡宇治田原町大字岩山小字丸山1-40
〒610-02 京都文教短大
- 森 正一** 静岡市西千代田町1-17
〒420 常葉大
- 森岡完介** 名古屋市長和区川名本町3-39
〒466 TEL052-762-6625 名古屋造形短大
- 山下哲郎** 福岡市東区香椎駅前3-17-21 鎗鍬坂ハイソ森40
〒813 九州産業大
- 山中 現** 東村山市秋津町5-1-13
〒189 TEL0423-96-3970 芸大
- 山野辺義雄** 町田市広袴443-10
〒194-10 TEL0427-34-5117 東海大

▶ 会員名簿

- 山本富章** 愛知県愛知郡長久手町岩作三ヶ峰1-1 芸大第3住宅3-5
〒480-11 TEL.05616-2-7526 愛知芸大
- 山本容子**
- 山口純寛** 世田谷区成城2-36-8 成城エコーハイツ206
〒113 TEL.03-415-9134 芸大
- 横田嘉雄** 岐阜市日野3968-352 山田学園家政短大
〒500 TEL.0582-47-6552
- 吉田 東** 福岡市南区大字塩原226 九州芸工大
〒815 TEL.092-541-1431
- 吉原英雄** 大阪府高槻市塚原6-18-14 京都芸大
〒569 TEL.0726-96-2286
- 吉田穂高** 三鷹市井ノ頭1-13-40 女子美大
〒181 TEL.0422-44-3923 日本大学芸術学部
- 吉本 弘** 愛知県愛知郡日進岩崎元井ヶケ17-97
〒470-01 TEL.05617-2-3565 愛知芸大
- 廖 修平** 284 CENTER STREET ENGLEWOOD CLIFFS,N.J.
07632 TEL.201-871-0554 SETON HALL UNIVERSITY
- 若生秀二** 日野市旭ヶ丘1-20-19 泰山荘C-201
〒191 TEL.0425-83-0481 造形大
- 渡辺達正** 八王子市鹿島22-1-208 多摩美大
〒192-03 TEL.0426-75-1655
- 若杉雅夫** 愛知県愛知郡長久手町長湫城屋敷76
〒 TEL. 東海女子短大
- 若月公平** 東村山市美住町2-11-1 小山マンション10E
〒189 TEL.0423-91-6407 武蔵野美大

▶ 一般会員名簿

- 東谷武美** 埼玉県上福岡市駒林436-3
〒356 TEL.0492-63-4779
- 出原 司** 京都市中京区姉小路堀川東入ル
〒604 TEL.075-221-5658
- 梅津祐司** 板橋区蓮沼7-7 ハスヌマアパルトマン
〒174 TEL.03-965-8918
- 梅沢和雄** 大宮市植竹町1-537
〒330 TEL.0486-66-4238
- 太田 広** 神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-28 C-21号
〒241 TEL.045-371-2561
- 岡部徳三** 神奈川県秦野市洪沢158
〒259-13 TEL.0463-88-0743
- 木村希八** 鎌倉市山崎1350-4
〒248 TEL.0467-45-2223
- 久保卓治** 相模原市上鶴間7-8-1-519
〒228 TEL.0427-48-7769
- 佐藤逸平** 鎌倉市台4-13-12
〒247
- 高橋貴和** 宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1
〒981-12
- 多田益也** 広島市佐伯区五日市町五ヶ丘3-14-6
〒738-08
- 嶺野寿蔵** 愛媛県伊予市灘町4丁目
〒799-21
- 長谷川光輝** 藤沢市辻堂西海岸2-12-4-213
〒251 TEL.0466-33-6758
- 萩原英雄** 中野区上高田5-33-8
〒164 TEL.03-386-0192
- 三木淳史** 市川市平田1-13-2
〒272 TEL.0473-22-1948

▶ 一般会員名簿

- 渡辺 満** 町田市高ヶ坂1634-61
〒194
- 北岡文雄** 杉並区和泉2-27-8
〒168 TEL.03-328-8361

▶ 賛助会員名簿

- 新日本造形** 中野区新井1-42-8
〒165 TEL.03-389-1221
- サクラクレパス** 台東区蔵前3-20-2
〒111 TEL.03-862-3911
- 日本版画保存会** 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方
〒214 TEL.044-911-9041
- 渡辺木版美術画舗** 中央区銀座8-6-19
〒104 TEL.03-571-4684
- 山田商会** 中央区八重洲2-6-10
〒104 TEL.03-281-1667・8537
- 萩原市蔵商店** 千代田区神田紺屋町43
〒101 TEL.03-256-3591
- 芸大画翠** 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内
〒100 TEL.03-821-7056
- ペンテル** 千代田区東神田2-1-6
〒101 TEL.03-866-6161
- マルチプルアートセンター** 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社
(乃村工芸) 〒108 TEL.03-455-1171
- ギャラリーカブセル** 中央区銀座8-16-10B401 堀江強志
〒104 TEL.03-541-4676
- 丸の内画廊** 千代田区丸の内3-2-3 富士ビル1F
〒100 TEL.03-213-8705
- びけん(本店)** 世田谷区尾山台3-33-5
〒158 TEL.03-702-2118
- 文房堂** 千代田区神田神保町1-21
〒101 TEL.03-291-3441
- 日動画廊** 中央区銀座5-3-16
〒104 TEL.03-571-2553
- 画荘ヴィナス** 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内
〒160 TEL.03-346-2728
- 画箋堂** 京都市下京区河原町五条上ル
〒600 TEL.075-791-6131
- クラタ商店** 大阪市鶴見区茨田諸口町1118
〒538 TEL.06-911-6561
- 酒井民雄** 大垣市郭町3丁目 酒井書店
〒503
- 菊田商店** 文京区本駒込3-8-2
〒113 TEL.03-821-7131
- 武蔵野美術学園** 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
〒180 TEL.0422-22-8171
- シロタ画廊** 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階
〒104 TEL.03-572-7971~2
- 養清堂画廊** 中央区銀座5-5-15
〒104 TEL.03-571-2471
- 阿部出版版画芸術** 目黒区上目黒4-30-12
〒153 TEL.03-715-2036・2046
- 日本オリビエ** 新宿区本村町市谷2-6
〒162 TEL.03-267-3811
- マルマン株式会社** 中野区中央1-23-7
画材部 〒164 TEL.03-371-1303

(順不同)

▶ 編集後記

今回は、さまざまな原因で発行が遅れてしまいました。皆様に多大な御迷惑をかけてしまい、紙面を借りておわび申し上げます。

女屋先生についての記事は、興味深いものとなり、記事を書いて頂いた中林先生には、重ねて御礼申し上げます。事務局も編集スタッフも、新たに改選となり、フレッシュなスタートを切れたと自負しております。最後に、発行に際して、御助力を頂いた、新日本造形株式会社様にお礼申し上げます。また、事務局長としてご苦労なされた清水先生、長い間ありがとうございました。

(園山記)

大学版画研究会 会報第15号 1986年7月

編集スタッフ 園山晴己／皆川考一／木村繁之／
筆塚稔尚／小林次男(今号のみ)
発行 大学版画研究会
印刷 新日本造形株式会社・有限会社西川

文房堂の版画材料

(木版・銅版・石版)

資料をご請求下さい

東京都千代田区神田神保町1-21 TEL (03) 291-3441 (代)



サクラ版画絵具

株式会社 サクラクレパス

良い版材は良い地金

版画用・銅板・亜鉛板・リト用・ジंक板・アルミ板

有限会社 **萩原市蔵商店**

東京都千代田区神田紺屋町43番地

電話 東京 (256) 3591番 (代表)

版画科 1年修 石版・銅版・木版

武蔵野美術学園

武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

石版画用ジंक研磨

版画用材料専門店 **クラタ商店**

大阪市鶴見区茨田諸口町1118

TEL 06-911-6561

洋画・デザイン材料・額縁・石膏像・版画



株式会社 **画荘 ヴィナス**

本店 〒460 名古屋市中区新栄町3-6

TEL <052> 961-0591 (代)

東京営業所 〒160 東京都新宿区西新宿1丁目15-13

TEL <03> 346-2728 (胖ビル内)

日本版画保存会

川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方

〒214 TEL. 044-911-9041

現代版画

銀座ギャラリー

カプセル

〒104 東京都中央区銀座8-16-10 B401

TEL 541-4676

ペンてる

水彩 (不透明水彩)

CRAYON

 **ペンてる株式会社**

創業53周年

日動画廊

東京都中央区銀座7-4-12

電話 (571) 2553 (代表)

画

翠

東京都台東区上野公園

芸術大学内 ☎ (821) 7056



養清堂画廊


中央区銀座5-5-15 でんわ 571-2471

丸の内画廊

GALLERY

〒100 千代田区丸の内3-2-3 富士ビル1F TEL 03-213-8705

<現代版画とマルチプル彫刻>

 株式会社 **乃村工藝社**

マルチプル・アートセンター

東京都港区芝浦4丁目6番4号 ☎ 03-455-1171

版画専門メーカー



新日本造形(株)

東京本社 〒165

東京都中野区新井1-42-8 TEL 03-389-1221

大阪支社 〒540

大阪市東区森ノ宮中央1-6-20 TEL 06-943-1141

〈新日本造形/本社5階〉

SNZ版画工房

- *エッチング
- *リトグラフ
- *シルクスクリーン

どなたでも、自由にお使いいただける唯一の版画工房です。

●毎日AM.9:00~PM.5:00 (日曜・祭日休み)

●講師指導日: 毎週水・土曜の午後

※プレス機、用具他完備!!

入会金、使用料、指導料一切不要!!

大学版画研究会

事務局 日本大学芸術学部美術学科 版画研究室内

〒176 東京都練馬区旭丘2-42 TEL. 03-972-2111 (内線238)